

都市学科（旧土木・旧都基・旧環都）

都市学科の近況



工学研究科教授・都市学科主任

大島 昭彦

卒業生の皆様には益々ご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。また、日頃より都市学科への種々のご支援を頂き、厚くお礼を申し上げます。

2019年度学部卒業生59名の進路は、約63%の37名が大学院前期博士課程に進学、残り22名が社会人となりました。就職先は、公務員が11名、民間会社が11名（ゼネコン2、コンサル2、環境系メーカー4、不動産2、その他1）です。同じく2019年度大学院前期博士課程修了生32名の就職先は、公務員が6名、民間企業26名（ゼネコン4、コンサル5、インフラ系9、メーカー6、その他2）となりました。最近、鉄道、道路、電力、空港などのインフラ系に行く学生が多い傾向が続いていますが、ゼネコン希望者が少ないのがやや心配の種です。また、2019年度は大阪市7名というのも特徴でした。一方で、2020年4月には学部54名の新入生を迎えることができました

教員の異動は、2020年4月に蕭閔偉（しょうこうじ）講師が准教授に昇任されました。また、林巖（はやしげん）先生が助教として橋梁工学研究室に着任されました。29才という若手教員で、今後の活躍が期待されます。さらに、重松教授が学生担当部長、貫上教授が工学研究科副研究科長の重責を担われ、引き続き本学および工学研究科の学務および管理運営にご尽力いただくことになりました。

今回の新型コロナウイルス感染はまさに「歴史的な事件」と言ってよいでしょう。この影響はかなり長期戦になると思われませんが、今後の大学統合、2025年大阪万博を控え、この歴史的なピンチをチャンスに変えることを考えていきたいと思っています。

今後とも、卒業生の皆様には都市学科への忌憚のないご指導、ご助言をいただくとともに、一層のご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。